

<研修名・事業名>

新任情報教育担当者研修【第4日】

<研修日>

10月2日(月)

<人数>

78名

<ねらい・目的>

情報教育担当者としての職務内容を理解し、教育の情報化の推進に向けた見通しをもつ。

<講師・指導者>

教育センター職員

<受講者の様子・感想>

今回の研修を通して、様々な実践を知ることができたことにとっても充実感を感じた。校内で、少しずつではあるが、タブレットを中心に ICT を活用したいという雰囲気が出てきている。この波を逃さないように、長時間の研修ではなく、短時間のミニ研修を効果的に活用することで、徐々に ICT 環境を整備できるよう尽力していきたい。

3 研修の実施

日時：8月25日(金) 10時10分～11時20分

場所：職員室

内容：(1)「個別最適な学び」と「協働的な学び」について

(2)Google Formでのアンケートについて

①結果

②Google Formの作り方

③困りごとへの回答(写真の印刷)

(3)実践例の紹介

①熊本市での実践

②Kahoot!

③NHK for school

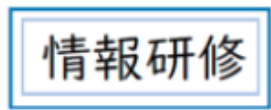
(4)お知らせと相談

①校内掲示板について

②休憩時間やテスト後のタブレット使用について

③児童のタブレットと電子黒板のミラーリングについて

④ホームページについて



-PCの電源を入れてください。🔌
-休憩デスクトップに入ってください。
-タブレット(充電コード)をご準備ください。

令和5年 8月25日(金) 教務部

今日の子定(全部で1時間)

1. 「個別最適な学び」と「協働的な学び」について

2. Google form でのアンケートについて

① 結果

② Google Formの作り方

③ 困りごとへの回答(写真の印刷)

3. 実践例の紹介

① 熊本市での実践

② Kahoot! 活用

③ NHK for school

4. お知らせと相談

① 校内掲示板について

② 休憩時間やテスト後のタブレットの使用について

③ 児童のタブレットと電子黒板のミラーリングについて

④ ホームページについて



4 実践

研修で共有した内容とブラウザへのリンクをGoogle Classroomの「職員室」に貼った。

<研修名>

教職経験2年次教員研修(第3日)

<研修日>

令和5年10月13日(金)、16日(月)、17日(火)

<人数>

238名(幼1、小123、中85、高16、中等2、特支11)

<ねらい・目的>

自己の教育実践を振り返り、課題解決に向けたマネジメント力を身に付ける。

<講師・指導者>

健康教育課職員、指導第一課職員、特別支援教育課職員、教育センター職員

<受講者の様子・感想>

自分の今の姿を第三者として客観的に捉え、マネジメントをしていくことが大切だと思った。その際、自分ひとりで考えるだけでなく、足りないところを先輩の先生方や管理職に相談したり、ほかの先生方の授業を積極的に見たりすることが大切だと思っている。コミュニケーション能力をつけていくことも自分をマネジメントすることにつながると感じた。



<研修名>	経験3年次園長・校長研修(第3日)
<研修日>	令和5年10月13日(金)
<人数>	29名(小学校19名 中学校9名 特別支援学校1名)
<ねらい・目的>	学校経営に係る専門的事項について理解を深め、校務運営上の課題解決に向けた力量を高めるとともに、学校経営計画の充実にに向けた見通しをもつ。
<講師・指導者>	教育センター職員

<受講者の様子・感想>
 ケースメソッドの事例から浮かび上がる学校運営上の問題は、本校でも起こりうるものであり、担任一人が抱えることなく、学校全体で共有・連携し、組織的に解決できるサポート体制を構築することが大切であると改めて思った。



<研修名>	特別支援教育基礎研修Ⅱ
<研修日>	令和5年10月23日(月)
<人数>	61名
<ねらい・目的>	認知機能の弱さによって困っている子どもの特徴を理解し、学習しやすい環境や支援の工夫を考えることができる。
<講義題>	認知機能(見たり、聞いたり、想像したりする力)の弱さで困っている子どもへのアプローチ
<講師・指導者>	広島大学大学院医系科学研究科教授 宮口英樹
<受講者の様子・感想>	<p>社会性の向上や聞く力と問題解決能力を高めるには、自分一人で考えるのではなく、グループなどで相談することが大事だと学んだ。認知機能の知覚や注意の部分でつまづいている児童が多いので、それに適したトレーニングや支援方法を実践していきたい。</p>



<研修名> エビデンスに基づく教育活動推進セミナー（第1日）

<研修日> 令和5年10月24日（火）

<人数> 7名（小4、中1、高2）

<ねらい・目的>
教育データの利活用についての知識を得るとともに、エビデンスに基づいた教育活動の重要性やその実現の方法について理解し、エビデンスに基づいた教育活動推進のための見通しをもつ。

<講師・指導者> 広島大学大学院人間社会科学研究科 准教授 杉田浩崇
安田女子大学教育学部児童教育学科 准教授 熊井将太

<受講者の様子・感想>
学校全体で一つのことを進めていく際には、問題やその解決に向けた見通しをエビデンスに基づき「見える化」し共有していくことが必要であると感じました。学校現場では教員が培ってきた経験や教育観に大きな開きがあるため、なかなか全体で合意形成を図ることが難しいと感じています。エビデンスに基づき「見える化」し共有していくことはその取り組みや評価の妥当性・信頼性を担保することにつながっていくのではないかと考えました。



<研修名>

教育活動推進リーダー育成研修第5日

<研修日>

10月25日(水)

<人数>

15名

<ねらい・目的>

「令和の日本型学校教育」について理解し、ミドルリーダーとして自園・校の「令和の日本型学校教育」の構築に向けて組織的に教育活動を推進するための実践力を高める。

<講師・指導者>

広島大学大学院教育学部人間社会学研究科

准教授 吉田 成章

<受講者の様子・感想>

リーダーとしてのあり方を見つめ直し、それを組織にどう還元していくか考えたいと思った。そのためにも多様な評価を聞くことが必要だと感じた。文献による根拠を示すことで、実践の裏付けをすることが大切だとわかった。



<研修名>

経験2年次園長・校長研修【第3日】

<研修日>

10月26日(木)

<人数>

33名

<ねらい・目的>

学校経営に係る評価について理解を深め、学校評価を基にした実践の見通しをもち、学校改善に必要なマネジメント力を身に付ける。

<講師・指導者>

福岡大学人文学部 教授 高妻 紳二郎 / 教育センター職員

<受講者の様子・感想>

「正しい眼で振り返って、望ましい姿(成果)へ近づくため」の言葉が特に印象に残った。学校評価の流れの中で、次へと活かすよう取り組んではいるが、改めて、「正しく振り返る」ことの重要性を再認識した。



<研修名>

新任学年主任研修

<研修日>

10月26日(木)、27日(金)、30日(月)、31日(火)

<人数>

159名

<ねらい・目的>

学年経営上の課題解決に向けた取組について評価・分析し、学年経営の改善に向けて見通しをもつ。

<受講者の様子・感想>

グループ協議を通して、学年経営の舵取りをどのようにしていけばよいのかを学ぶことができた。



<研修名>	新任教育相談・支援主任研修、教育相談・支援主任研修
<研修日>	令和5年10月30日(月)、31日(火)
<人数>	216名
<ねらい・目的>	教育相談及びいじめ・不登校等の未然防止に係る必要な知識を得るとともに、教育相談・支援主任の役割を理解し、組織的な教育相談及びいじめ・不登校等の未然防止の取組の充実に必要な力量を高める。※【新任】取組の推進に向けた見通しをもつ。
<講師・指導者>	生徒指導課職員
<受講者の様子・感想>	ふれあいひろばの設立の背景や目的等についての理解が深まりました。これまで、「居場所づくり」に注力してふれあいひろばを運営してきました。これからは「学びの場」ということも意識し、まずは教員、そして生徒にも目的を伝え、ゴール像を一緒に考えながら取組を進めたいです。

